

近畿大学教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

1. 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
2. 専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
3. 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
4. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
5. 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1. 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
2. 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
3. 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
4. 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

総合社会学部教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

総合社会学部では、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え、問題解決を図る能力を育成するために、以下のようなカリキュラムを設置しています。

〈共通教養科目〉

幅広い知識と洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を身につけ、特に「人間の責務としての教養」と「グローバルな視点」を養成することに重点を置いています。また、少人数で行われる演習により、読み、書き、発表、議論のしかたの基礎を学び、主体的に学問に取り組む姿勢を身につけます。

〈外国語科目〉

外国語学習の重要性を実感し、グローバルな視点養成の土台として、初年次は英語科目を最重要視して配置しています。上級学年では、系統性のある語学学習を保障するため、英語専修、中国語又は韓国語専修、外国語標準の履修方式を取り入れ、基幹科目、発展科目を体系的に配置します。目的別・スキル別に明確な学習目標を自ら設定することで学生個々のレベルアップを図ります。

〈学部共通コア科目〉

これはどの専攻に所属しようとも必ず受講する科目群で、まず、心理－社会－環境からなる3つの視点や研究スタイルを理解します。その上で、既存の学問分野の枠を超えた総合的な視点や、異なる3つの視点からの多様なものの見方を養成します。

〈専門科目〉

4年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を施す科目を必修として設定し、「学部共通コア科目」の土台の上に、各専攻において学習をより深めていきます。体系的な科目を段階的・連続的に配置することにより、本学部の目的である、多様なものの見方を総合化していく力を養成します。

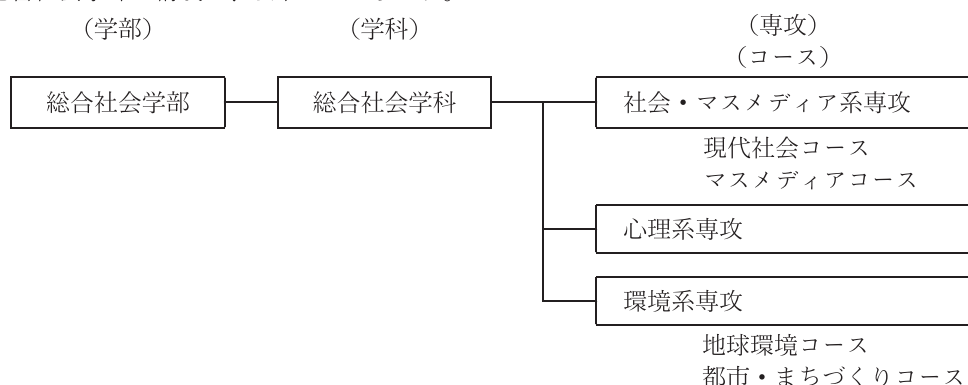
ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

総合社会学部では、「ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができること」を教育の到達目標として、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨のもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（総合社会学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は次のとおりです。

1. 社会やその構成員である個人の問題について幅広い知識と関心を持ち、知識を柔軟に応用して社会や個人の問題に対処・援助できること。
2. 複雑化した現代社会の問題群を横断的に捉え、新しい社会システムを提案できること。
3. 創造的思考力や情報活用力・論理的思考力・協調性・コミュニケーション能力・自律的な学びの姿勢を身につけ、総合的に社会問題の解決に取り組めること。
4. 社会問題の解決や生活の質的向上のため、自律的に行動できること。
5. 人間の行動や社会について客観的・科学的に理解できること。

1. 総合社会学部構成

総合社会学部の構成は、以下のとおりです。



2. 学期および授業時間

* 学期

「学期」は、「前期」と「後期」の二期に分かれています。

第1学年	前期	後期
第2学年	前期	後期
第3学年	前期	後期
第4学年	前期	後期

一部を除いたほとんどの科目は、前期または後期の半年間履修することによって完結します。ただし、前期・後期の授業開始日および終了日は毎年変わるので、「総合社会学部掲示板」などで連絡します。

* 授業時間

授業は原則として年間を通じ第1時限から第5時限まで開講されます。ただし、教職課程科目、司書課程科目については第6、7時限に開講される場合があります。各時限の時間帯は以下のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
第6時限	第7時限			
18:10～19:40	19:50～21:20			

3. 教育課程

* 学年制

本学では学年制を採用しています。本学の修業年限は4年とします。4年を超えて在学することはできませんが、8年を超えて在学することはできません。学年制では、「第1学年」「第2学年」「第3学年」「第4学年」しか存在しません。在学年数が直ちに当該「学年」を意味するわけではありません。したがって、たとえば、在学年数が5年であっても第3学年生ということがあります。

* 科目

総合社会学部の教育課程では、「共通教養科目」「外国語科目」と「学部共通コア科目」により本学部教育の土台を形成する科目を置き、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に、基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

*** 必修科目・選択科目**

「共通教養科目」「外国語科目」「学部共通コア科目」「専門科目」は、以下の科目区分に分類しています。

「必修科目」：卒業要件として修得を必要としている科目

「選択科目」：学年の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目

4. 単位制、キャップ（CAP）制、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度

*** 単位の考え方**

近畿大学では、**単位制**を採用しています。履修登録を行い、授業に出席し、試験その他の方法で成績の評価を受けて合格点を得た場合に、所定の単位が授与されます。単位の計算基準は、次のとおりとします。（科目の具体的な単位数は、カリキュラム表（p.8～p.13）を参照してください。）

- (1) 講義は、毎週1時限の授業を半期で2単位とする。
- (2) 実験、実習、実技および演習による科目は、毎週1時限の授業を半期で1単位または2単位とする。
- (3) 「卒業論文」「卒業制作」は8単位とする。

*** キャップ（CAP）制**

前期・後期に履修登録できる単位の上限を設けているのが、キャップ制です。教員が教室で授業を行う時間以外に、学生が教室外で予習・復習を行う時間が必要です。そのために総合社会学部では以下の表に示すとおり履修登録できる単位の制限を設け、年間で前期24単位、後期24単位の、あわせて48単位を上限とします。ただし、教職課程・司書課程や下記の記載科目（※）は含みません。またその他、卒業所要単位に認められない科目は含みません。

学年	前期登録単位数	後期登録単位数
1	24	24
2	24	24
3	24	24
4	24	24

※キャップ制除外科目

①共通教養科目

「ボランティア実習」

②外国語科目

「海外語学研修（英語）」「海外語学研修（中国語）」「海外語学研修（韓国語）」

③インターンシップ科目

「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」「インターンシップⅢ」「インターンシップⅣ」

④教職科目

教職教育部が開講する「教職に関する科目」と「教科に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」のすべて

⑤司書課程科目

司書課程科目のすべて

* グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度

総合社会学部では、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度を成績評価の指標として取り入れています。ただし、進級要件や卒業要件には GPA 値を用いません。この GPA 制度は、進級・卒業のための履修計画を立て、卒業後の進路目標に近づくためにどのようなことを続けていけばよいのか、何が足りないのか、何が必要なのか、自分を見据えたとえで課題を見つけ活用することをねらいとしています。また、GPA 制度は、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職など海外でも幅広く通用する成績評価制度であり、海外の大学によっては、入学選考書類に GPA の記載を求めることがあります。本学部のこの制度は、成績評価を厳格化するために、あらかじめ「到達目標」や「評価基準」を設けて信頼性あるものになっています。

GPA 値は以下の式で算出される。ただし、GPA の小数第 2 位を四捨五入して、表記は小数第 1 位までとする。

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{修得科目の単位数}) \times (\text{修得科目の GP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

実点	100 点～ 90 点	89 点～ 80 点	79 点～ 70 点	69 点～ 60 点	59 点以下	不受験
成績評価	優	優	良	可	不可	不受験
GP (グレード・ポイント)	4	3	2	1	0	0

† 実点は、当該科目の点数を表す。

† GPA の計算式にキャップ制除外科目（前ページ参照）を含まない。

† GPA の計算式に履修取り下げ科目を含まない。

† 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合には、通算の GPA には再履修前の 0 点を含めない。ただし、学期ごとに算出される GPA には 0 点も算入される。

* グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に基づいた履修取り下げ

GPA 制度では成績評価がなされたもの（不受験を含む）はすべてアベレージに算入されるため、GPA の値に影響します。そのため履修登録後、総合社会学部で定めた期間に、学生本人からの申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めています。ただし、履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途掲示します。

5. 進級および卒業に関わる要件・カリキュラム表

* 進級要件

次学年に進級するためには、各専攻で定めた進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

学年	修 得 単 位
1 → 2	第 1 学年において共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目の中から合計 22 単位以上を修得すること。
2 → 3	第 1 学年から第 2 学年を通じて共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目の中から合計 58 単位以上を修得すること。 ただし、心理系専攻では、必修科目：「心理学概論 A」「心理学概論 B」「心理学研究法」の合計 6 単位を含むこと。
3 → 4	第 1 学年から第 3 学年を通じて共通教養科目（20 単位以上）、外国語科目（14 単位以上）、学部共通コア科目（8 単位以上）、専門科目の中から合計 94 単位以上を修得すること。

*** コース選択（社会・マスメディア系専攻、環境系専攻）**

社会・マスメディア系専攻と環境系専攻では、コースの定員を考慮して第2学年進級時にコース分けを行います。

- ・社会・マスメディア系専攻は、「現代社会コース」、「マスメディアコース」
- ・環境系専攻は、「地球環境コース」、「都市・まちづくりコース」

コース分けの方法は、各専攻で行う説明会にて説明します。説明会の日時の案内は、「総合社会学部掲示板」に掲示します。

*** 卒業要件**

総合社会学部を卒業するためには、4年間以上在学し（ただし、各学年1年以上在学すること）、共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目および専門科目について次の単位数を修得しなければなりません。

科目	科目群	単位数
全学共通科目	共通教養科目	24 単位以上
	外国語科目	18 単位以上
専門科目	学部共通コア科目	12 単位以上
	その他の専門科目	72 単位以上
合計		126 単位以上

全学共通科目：共通教養科目

科目	科目群		科目名	単位数	合計
共通教養科目	人間性・社会性科目群から			10 単位以上	24 単位 以上
	地域性・国際性科目群から			6 単位以上	
	課題設定・問題解決科目群から	必修科目	基礎ゼミ	2 単位	
		選択科目		4 単位以上	
	スポーツ・表現活動科目群から			2 単位以上	

全学共通科目：外国語科目（英語専修・中国語専修・韓国語専修・外国語標準のいずれか一つ）

外国語科目		科目名	単位数	合計
(共通) 英語 基幹科目	必修科目	英語演習 1	2 単位	18 単位 以上
		英語演習 2	2 単位	
		オーラルイングリッシュ 1	2 単位	
		オーラルイングリッシュ 2	2 単位	
英語専修履修 ※	英語 基幹科目と発展科目から		10 単位以上	
中国語専修履修 ※	中国語 基幹科目と発展科目から			
韓国語専修履修 ※	韓国語 基幹科目と発展科目から			
外国語標準履修 ※	第一外国語と第二外国語 基幹科目と発展科目から			

※外国語科目の履修については、第1学年後期に履修指導します。

専門科目（学部共通コア科目）

学部共通コア科目	科目区分		科目名	単位数	合計
	必修科目		専門基礎演習	2 単位	12 単位 以上
	選択科目			10 単位以上	

専門科目（専攻別）

	科目区分		科目名	単位数	合計
	社会・ マスメディア系	専攻共通科目	必修科目	※カリキュラム表参照	16 単位
選択科目				14 単位以上	
専門発展科目		所属コースから		20 単位以上	
専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目（○）・他コース科目（△）を含む			22 単位以上		
心理系	専門基礎科目	必修科目	※カリキュラム表参照	8 単位	72 単位 以上
		選択科目		10 単位以上	
	専門発展科目	必修科目	※カリキュラム表参照	16 単位	
		選択科目		28 単位以上	
専門基礎科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目（○、□）を含む			10 単位以上		
環境系	専攻共通科目	必修科目	※カリキュラム表参照	18 単位	72 単位 以上
		選択科目		12 単位以上	
	専門発展科目	所属コースから		20 単位以上	
	専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目・他コース科目（○）を含む			22 単位以上	

※○、△、□印はカリキュラム表（P8～P13）に記載されています。

専門科目（専攻別）表の説明

(1) 社会・マスメディア系専攻

専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専攻共通科目から必修科目を含め 30 単位以上、専門発展科目は所属コースから 20 単位以上を修得しなければなりません。

(2) 心理系専攻

専門基礎科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専門基礎科目から必修科目を含め 18 単位以上、専門発展科目から必修科目を含め 44 単位以上を修得しなければなりません。

(3) 環境系専攻

専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専攻共通科目から必修科目を含め 30 単位以上、専門発展科目は所属コースから 20 単位以上を修得しなければなりません。